

区分・種別	重要文化財(石造美術)		
名 称	こうりゅうじほうきょういんとう 興隆寺宝篋印塔 1基		
所 在 地	西条市丹原町古田		
所 有 者	興隆寺	管 理 団 体	
指定年月日	昭和29年9月17日		
解 説	<p>興隆寺本堂向かって右後方に建立されているこの石塔は、寺伝によれば、源頼朝の供養塔といわれている。2段の基壇上に立ち、総高305cmの花崗岩製である。</p> <p>保存の状態がよく、基礎より相輪にいたるまで損傷の跡はなく、極めて整った姿を保っている。</p> <p>塔身正面に梵字<small>ほんじ</small>が刻んであり、基礎部正面の格狭間<small>こうざま</small>の中央には蓮弁を浮彫りにしている。</p> <p>この塔の沿革について、確かな伝承はないが、全体の形式、技法から南北朝時代の作品とみられる。</p>		

